川崎医療福祉学会誌　Vol. 15　No. 1　2005　289–293

資　料

看護学生の心理社会的発達
— 看護大学生・看護専門生・非看護系学生の比較 —

中新美保子[*1]　谷原政江[*2]　長江宏美[*2]　大場広美[*3]
太田にわ[*4]　砂田正子[*5]　山口三重子[*6]　留田通子[*7]　福山礼子[*8]

はじめに

著者らは，看護学生に対して効果的な臨地実習指導を行うためにはどのような教育が必要なのかを明らかにするために学生の生育環境や受け持ち患児の条件などを取り上げて研究を重ねてきた[1,2]．効果的な実習とするために有効とされた意思疎通のできる小児を学生に受け持たせ，その実習場面の事例分析を行った結果，それらの操作を加えても学生間の学びに差が生じることがわかった[3]．これは学生自身の心理社会的な発達の度合いと実習効果が関係するためではないかと推測された．看護学生はその多くが18歳という早い段階で職業と直結する学習を始めることから，両者の関係は心理社会的発達の中でも職業同一性の発達と大きく関係する[4]のではないかと考え，同一性理論枠組みを基としてローゼンタールらが作成したエリクソン心理・社会的段階目録を用いて看護学生の心理社会的発達の調査を続けている．これまでの研究結果からは，心理社会的な発達の度合いが高い学生と低い学生を比較した場合，高い学生は実習に対する充実度が高く[5]，ストレス反応は低い[6]ことが明らかになった．このことは筆者らの予測どおり，学生自身の心理社会的な発達の度合いと効果的な実習に密接な関係があることを示している．

そこで，青年期にある看護を志す学生の心理社会的な発達の度合いは非看護系学生と比較してどのような特徴をもつのか把握することが必要と考えた．看護教育の中に大学教育が拡大しつつある現在では，看護を志す学生を4年制大学の学生（以下，看護大学生と略す）と3年課程の短期大学および専門学校の学生（以下，看護専門生と略す）の2つの群に分けて比較することが必要である．非看護系学生の選定には，職業同一性の影響を受けることが少ない学生であることを念頭においた．また，看護学生は圧倒的に女子が多いことから性差が生じないように本調査では青年期女子を取り上げ，さらにその違いを鮮明にするために，各々の高等教育が影響しない入学時に実施することが有効であると考えた．

本研究の目的は，心理社会的発達の度合いを看護大学生，看護専門生と非看護系学生の3群で比較し，入学時の看護学生の心理社会的な発達の特徴を知ることである．

方　　法

1．調査尺度

エリクソンの心理社会的発達課題に対する達成感覚を測定評価するためにローゼンタールらが開発したエリクソン心理社会的段階目録の日本語改訂版を中西信男らが再改訂した質問紙（Erikson Psychosocial Stage Inventory, 以下EPSIと略す）[7]を用いた．

これは信頼性・自律性・自主性・勤勉性・同一性・親密性・生殖性・統合性の8下位尺度から構成され，中西の解説[8]を用いれば以下のように説明できる．信頼性とは他者を信頼できると共に自分に対して自信の感覚をもつことである．自律性とは自分が独自の存在であることに気づいており，自分の意志で物事を選択したり，行為を統制することができる，また，感情を平静に保つために自己コントロールができることである．自主性とは物事に対して積極的に取り組み，自分で決断をするとともに責任をとろうとする感覚である．勤勉性とは目標に向かって学習者としての自己を見出し，その成果を周囲から承認を得て，自己の有能性と社会的価値を確認し，自尊感情を高めようとする感覚をもつことである．同一性とはこの自分でよいという自己肯定感と，これか

*1 川崎医療福祉大学　医療福祉学部　保健看護学科　*2 川崎医療短期大学　第一看護科　*3 岡山赤十字看護専門学校
*4 岡山大学　医学部　保健学科　*5 岡山県看護協会　*6 広島県立保健福祉大学　保健福祉学部　看護学科
*7 倉敷看護専門学校　*8 岡山済生会看護専門学校
（連絡先）中新美保子　〒701-0193　倉敷市松島288　川崎医療福祉大学

らもこの自分でやっていけるという自信をもち，さらには，この自分は社会から受け入れられているという感覚をもつことである．親密性とは相手の個別性を尊重したうえでお互いに信頼し協力し合いながら，相互の欲求を満足させ合うという相互性の発達感覚をもつことである．生殖性とは自分の子どもをもつという意味だけではなく，他人や社会に尽力して価値観や伝統を伝え，福祉，教育などの向上に役立ちたいという感覚をもつことである．統合性とは自我同一性の累積の結果として得られるものである．成功，不成功を問わず自分の過去を受容できることを意味する．

本調査票は各下位尺度に７項目，合計56項目の質問があり，非常にそう思う（５点）から全くそう思わない（１点）までの５段階評価のあてはまるものに○印をつける形式である．この尺度の信頼性，妥当性については佐方[9) 10)]や中西[11)]によって検証されている．

２．調査対象と調査期間

対象者はＯ県下に1999年４月に入学したばかりの青年期の女子学生で，研究の趣旨に同意し協力の得られた看護専門生175名（短期大学１校，専門学校３校），看護大学生139名（看護系大学３校），非看護系学生396名（私立女子大学文学部２校）の合計710名である．調査期間は1999年４～５月であった．

３．手続き

調査は質問紙の直接または間接配布により行った．非看護系学生と一部看護大学生は授業担当者が，看護専門生と一部看護大学生は筆者らが直接配布した．その際，調査の趣旨を説明し，無記名方式であり，個人のプライバシーが漏れることがないこと，研究目的以外には使用しないこと，回答は任意であること等，倫理的配慮に留意した．回収は後日行った．

４．分析方法

全ての調査項目に回答が得られた看護専門生170名（有効回答率，97.1％），看護大学生124名（89.2％），非看護系学生365名（92.2％）の合計659名（92.8％）を分析の対象とした．

下位尺度について３群間の比較を一元配置分散分析で行い，平均値の多重比較（Scheffe, 有意水準0.05）を行った．また，詳細な分析を行うために下位56項目も同様に比較した．なお，統計解析ソフトは，SPSS13.0J を使用した．

結　　果

３群それぞれの EPSI 得点の平均値と SD を表１に示す．

１．信頼性

信頼性は３群間で有意な主効果があり〔$F(2,656) = 3.931$, $p<0.05$〕，非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．下位項目の分析では，「世間の人を信頼している」は看護大学生が非看護系学生より高かった．「最悪の事態にならない」は非看護系学生が看護専門生・看護大学生に比べ高かった．

表１　３群間の EPSI 得点の比較　　看護専門生（n ＝170），看護大学生（n ＝124），文学部学生（n ＝365）

尺度	群	看護大学生 平均値(±SD)	看護専門生 平均値(±SD)	非看護系学生 平均値(±SD)
信頼性		2.90(±0.36)	2.85(±0.35)	2.95(±0.40)
下位項目	コントロールする力がある	3.55(±1.06)	3.45(±1.04)	3.61(±1.07)
	よいことが長続きする	3.12(±1.25)	3.01(±1.25)	3.13(±1.23)
	世間の人を信頼している	3.24(±0.99)	3.20(±0.92)	2.99(±0.96)
	私のことをよく理解してくれる	3.29(±0.95)	3.28(±0.87)	3.23(±0.91)
	最悪の事態にならない	2.17(±1.10)	2.22(±1.08)	2.56(±1.16)
	よい方向に向かっている	2.73(±0.98)	2.57(±0.94)	2.59(±0.90)
	私を理解してくれる	2.20(±0.95)	2.22(±0.89)	2.53(±0.99)
自律性		2.94(±0.42)	2.92(±0.45)	3.06(±0.45)
下位項目	優柔不断でない	3.42(±1.08)	3.25(±1.05)	3.61(±1.06)
	決断力がある	3.27(±1.10)	3.08(±1.16)	3.39(±1.13)
	自分の存在は恥ずかしくない	2.10(±1.00)	2.16(±1.09)	2.50(±1.10)
	選んだり決めたりするのが好きである	3.40(±1.14)	3.36(±1.02)	3.08(±1.03)
	決断に自信がある	2.98(±1.13)	2.95(±1.03)	3.20(±1.07)
	うまくやっていこうと思う	1.98(±1.03)	2.28(±1.00)	2.43(±1.00)
	ありのまま受け入れられる	3.44(±0.87)	3.34(±0.84)	3.25(±0.93)
自主性		3.10(±0.43)	3.07(±0.42)	3.16(±0.43)
下位項目	能力がある	3.12(±0.94)	3.13(±0.96)	3.24(±0.94)
	アイディアを自分で出す	3.08(±1.03)	3.05(±0.98)	3.34(±1.05)
	精力的な人間である	2.60(±0.97)	2.61(±0.91)	2.54(±0.88)
	本当のことは否定しない	3.10(±1.06)	3.00(±0.96)	3.19(±0.93)
	リーダーになる人間である	3.31(±1.20)	3.35(±1.05)	3.48(±1.10)
	罪悪感を持っていない	2.46(±1.04)	2.58(±0.98)	2.77(±1.10)
	自分をコントロールできる	4.02(±0.95)	3.76(±0.87)	3.59(±1.03)
勤勉性		3.28(±0.32)	3.27(±0.30)	3.16(±0.36)
下位項目	一生懸命仕事や勉強をする	3.85(±0.81)	3.62(±0.84)	3.33(±0.86)
	役に立つ人間である	3.03(±0.80)	3.06(±0.71)	2.75(±0.76)
	達成しようとがんばっている	4.33(±0.68)	4.16(±0.80)	3.43(±0.98)
	自分の仕事をうまくこなすことが出来る	3.49(±0.83)	3.43(±0.70)	3.17(±0.81)
	物事を完成させる	2.23(±0.96)	2.41(±1.00)	2.82(±0.97)
	時間を無駄にしない	3.14(±1.16)	3.28(±1.11)	3.56(±1.10)
	頭を使ったり技術のいることが得意	2.88(±0.99)	2.95(±0.97)	3.09(±1.03)

尺度	群	看護大学生 平均値(±SD)	看護専門生 平均値(±SD)	非看護系学生 平均値(±SD)
同一性		2.85(±0.34)	2.91(±0.38)	2.91(±0.41)
下位項目	なりたいものがはっきりしている	4.31(±0.91)	4.34(±0.85)	3.24(±1.24)
	混乱していない	2.52(±1.21)	2.56(±1.18)	2.76(±1.12)
	自分をよく知っている	3.76(±0.86)	3.80(±0.91)	3.53(±0.97)
	どの様に生きたいか自分で決められる	1.73(±0.91)	1.79(±0.92)	2.41(±1.09)
	自分のしていることがわかっている	1.97(±0.93)	2.15(±1.02)	2.55(±1.04)
	自分に誇りを持っている	3.32(±0.94)	3.19(±1.01)	3.14(±1.00)
	充実感がある	2.36(±1.05)	2.55(±1.10)	2.72(±1.05)
親密性		2.92(±0.41)	2.92(±0.34)	2.99(±0.39)
下位項目	話をされても当惑しない	1.99(±1.01)	2.09(±1.04)	2.32(±1.09)
	人と深く付き合いができる	4.11(±0.91)	4.18(±0.91)	3.84(±0.97)
	暖かく親切な人間である	3.24(±0.76)	3.48(±0.72)	3.15(±0.86)
	一人ぼっちでない	1.90(±1.10)	1.79(±1.02)	2.21(±1.17)
	他の人たちと親密な関係をもてる	3.67(±1.03)	3.53(±0.89)	3.46(±0.94)
	目立つのがすき	3.09(±1.06)	2.90(±0.96)	3.16(±1.05)
	他の人たちと親しくなれる	2.43(±1.21)	2.44(±1.19)	2.78(±1.13)
生殖性		3.19(±0.35)	3.18(±0.29)	3.09(±0.35)
下位項目	面倒をよくみる	3.48(±0.92)	3.35(±0.88)	3.04(±0.99)
	業績をあげつつある	2.45(±1.05)	2.52(±0.97)	2.23(±1.01)
	親になる自信がある	3.44(±1.02)	3.45(±1.03)	3.01(±1.13)
	後輩や部下の指導がとくい	2.87(±1.21)	2.94(±1.11)	3.19(±1.12)
	自分を甘やかさない	3.81(±0.93)	3.85(±0.79)	4.00(±0.85)
	親になることに不安がない	2.47(±1.23)	2.63(±1.26)	2.88(±1.16)
	子供たちを育てていきたい	3.78(±1.04)	3.55(±1.00)	3.28(±1.03)
統合性		2.89(±0.39)	3.00(±0.39)	2.95(±0.38)
下位項目	死ぬことが不安でない	2.80(±1.41)	2.88(±1.32)	2.75(±1.31)
	人生はかけがいがない	4.23(±1.01)	4.22(±0.96)	3.63(±1.15)
	生きがいがある	1.65(±0.86)	1.68(±0.89)	2.13(±1.09)
	くいのない人生を歩んでいる	3.22(±1.21)	3.25(±1.16)	2.93(±1.05)
	自分の死を受け入れることができる	3.27(±1.23)	3.53(±1.02)	3.29(±1.12)
	別の生き方があるとは思わない	2.97(±1.28)	3.02(±1.26)	3.39(±1.02)
	失敗の連続とは思わない	2.09(±1.09)	2.42(±1.33)	2.55(±1.14)

「私を理解してくれる」は非看護系学生が看護専門生・看護大学生の2群より高かった．

2．自律性

自律性は3群間で有意な主効果があり〔$F(2,656) = 7.998$, $p<0.001$〕，非看護系学生が看護大学生・看護専門生の2群に比べ高かった．下位項目の分析では，「優柔不断でない」は非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．「決断力がある」は非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．「自分の存在は恥ずかしくない」は非看護系学生が看護専門生・看護大学生の2群より高かった．「選んだり決めたりするのが好きである」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生が非看護系学生に比べ高かった．「決断に自信がある」は非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．「うまくやっていこうと思う」は非看護系学生が看護大学生に比べ高く，看護専門生が看護大学生に比べ高かった．

3．自主性

自主性は3群間で有意な主効果があり〔$F(2,656) = 3.389$, $p<0.05$〕，非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．下位項目の分析では，「アイディアを自分で出す」は非看護系学生が看護専門生に比べ高かった．「罪悪感を持っていない」は非看護系学生が看護大学生に比べ高かった．「自分をコントロールできる」は看護大学生が非看護系学生に比べ高かった．

4．勤勉性

勤勉性は3群間で有意な主効果があり〔$F(2,656) = 8.938$, $p<0.001$〕，非看護系学生が看護大学生・看護専門生の2群より高かった．下位項目の分析では，「一生懸命仕事や勉強をする」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生も非看護系学生に比べ高かった．「役に立つ人間である」は看護専門生が非看護系学生に比べ高く，看護大学生も非看護系学生に比べ高かった．「達成しようとがんばっている」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生も非看護系学生に比べ高かった．「自分の仕事をうまくこなすことが出来る」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生も非看護系学生に比べ高かった．「物事を完成させる」は，非看護系学生が看護大学生・看護専門生の2群より高かった．

5．同一性

同一性は3群間で有意な主効果がなかった．

6．親密性

親密性は3群間で有意な主効果がなかった．

7．生殖性

生殖性は3群間で有意な主効果があり〔$F(2,656) = 6.526$, $p<0.01$〕，看護大学生・看護専門生の2群が非看護系学生より高かった．下位項目では，「面倒をよくみる」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生も非看護系学生に比べ高かった．「業績をあげつつある」は看護専門生が非看護系学生に比べて高かった．「親になる自信がある」は看護専門生が非看護系学生に比べ高く，看護大学生も非看護系学生に比べ高かった．「後輩や部下の指導が得意」は非看護系学生が看護専門生・看護大学生の2群より高かった．「親になることに不安がない」は非看護系学生が看護大学生に比べ高かった．「子どもたちを育てていきたい」は看護大学生が非看護系学生に比べ高く，看護専門生も非看護系学生に比べ高かった．

8．統合性

統合性は3群間で有意な主効果がなかった．

考　　察

1．「信頼性」・「自律性」・「自主性」の発達の度合いについて

信頼性の発達の度合いは，非看護系学生が看護専門生より高いことがわかった．エリクソンは，信頼ということは，他人に関しては信頼できるという十分な理由をもち，自分自身に関しては自信の感覚をもつことを意味する[12]と述べている．下位項目を見ると，看護専門生・看護大学生2群とも「最悪の事態にならない」「私を理解してくれる」の得点が低く，今まで体験したことのない看護の学習を始めることで自分自身に対する自信がなくなっている状況といえる．

自律性の発達の度合いは，非看護系学生が看護専門生，看護大学生より高いことがわかった．下位項目でも，非看護系学生は「優柔不断でない」「決断力がある」「決断に自信がある」で有意に高く，自分の意志で物事を選択したり，行為を統制することが看護系学生より発達しているといえる．また，看護大学生は「うまくやっていこうと思う」の得点が専門学校生・非看護系学生の2群より低くなっている．看護を学ぶ大学という環境の中に入り，知識だけではなく専門職としての技術も求められる学習の場に直面し，自己を律してうまくやっていこうとする気持ちが揺らいでいることがわかる．

自主性の発達の度合いは，非看護系学生が看護専門生より高いことがわかった．自主性は物事に対して積極的に取り組み，自分で決断することに関する達成意識である．看護者は対象に対して自らを主張することなく共感し受容的に関わることが求められる職種であるとされているため看護系を選択した学

生は，協調性が優先され自主性の発達の度合いが低い学生であることが推測される．しかし，自主性の意味合いの中には，自分で決断したり責任を取ることも含まれている．看護者が今後，看護を発展させるためには自主性の発達は必ず必要であるため，今後の教育の中で発達が促進される関わりが行われることが望ましい．

2．「勤勉性」・「生殖性」の発達の度合いについて

勤勉性の発達の度合いは，看護大学生，看護専門生の2群が非看護系学生より高いことがわかった．「一生懸命仕事や勉強をする」「役に立つ人間である」「達成しようとがんばっている」「自分の仕事をうまくこなすことが出来る」の下位項目で有意に得点が高い．受験を乗り越えてがんばった結果として看護の道に合格したこと，今後は人の役に立つ社会的評価の高い仕事であることを意識しながら，意欲的に目標に向かおうとしていることが示されている．

生殖性の発達の度合いは，看護大学生，看護専門生の2群が非看護系学生より高いことがわかった．生殖性は自分の子どもをもつということだけではなく，他人や社会に尽力して価値や伝統を伝える感覚である．「面倒をよくみる」「親になる自信がある」「子供たちを育てていきたい」「業績をあげつつある」の下位項目で得点が高い．これらの項目の内容は，看護の特性とも通じるものであり，調査対象の看護学生が看護への適性を備えた学生であることがわかる．

3．「同一性」の発達について

同一性の発達の度合いに関して筆者らは，看護専門生や看護大学生といった職業教育を志す学生は，入学以前から職業的同一性の達成感覚が高く，それに影響されて心理社会的な発達も高いと予測をしていた[5]が，本調査では否定された．

看護学生の職業的同一性形成に関連した研究は，Marcia,J.E.の自我同一性地位の観点から検討しているもの[13−16]が多く，EPSIを用いたものは見当たらないため比較検討は出来ない．しかし，小松原らは看護学生と4年生女子大学生の同一性地位の比較を行い，両者には共通点もある[17]と報告していることを考えると本調査の結果は納得できる．調査対象の看護学生は，勤勉性や生殖性といった看護への適性を備え入学してはいるが，看護を学んでいく中で自分と職業との関係性を捉えながら，この自分でよいという自己肯定感やこの自分でやっていけるという感覚である同一性を発達させていく途上にあり，教育的視点からはその援助に配慮した指導を要すると考えられる．

ま と め

1. 信頼性・自主性の発達の度合いは，非看護系学生が看護専門生より高かった．
2. 自律性の発達の度合いは，非看護系学生が看護専門生，看護大学生より高かった．
3. 勤勉性・生殖性の発達の度合いは，看護大学生，看護専門生が非看護系学生より高かった．
4. 同一性・親密性・統合性の発達の度合いは，看護大学生，看護専門生，非看護系学生の3群間に差がみられなかった．

なお，本調査は，O県内の看護学生および非看護系学生の一部を対象にした結果であり，研究の限界がある．

本研究をまとめるにあたり，アンケートにご協力いただきました学生の皆様に感謝申し上げます．

文　　献

1）太田にわ，砂田正子，磨家敦子，平松昌子，中新美保子：小児看護実習終了後の学生の認識と課題，第20回日本看護学会集録（看護教育），73–76，1989．
2）太田にわ，砂田正子，磨家敦子，平松昌子，中新美保子：小児看護実習前における小児に対する学生の認識，岡山県看護教育研究報告，18–19，1990．
3）中新美保子，太田にわ，砂田正子，磨家敦子，平松昌子：小児に否定的認識をもつ学生への実習指導，第22回看護学会集録（看護教育），333–336，1991．
4）松下由美：看護学生における職業的同一性形成に関する研究，看護教育，**20**，201–203，1989．
5）中新美保子，田中七重，山本玉起，難波千恵子，田村千代美，谷原政江，砂田正子，磨家敦子，小野ツルコ：看護学生の自我の発達の度合いと実習充実度　—小児に対するイメージ，親和度との関連から—，平成5年度日本看護協会中国四国地区看護研究学会集録，88–93，1993．
6）谷原政江，砂田正子，中新美保子，田中七重，山口三重子，田村千代美，長江直美：学生の自我の発達と小児看護学実習におけるストレス反応との関連，第29回看護教育学会論文集，109–111，1998．
7）佐方哲彦：自分の行き方を見つける．中西信男編，人間形成の心理学，初版，ナカニシヤ出版，京都，83–85，1989．

8）中西信夫：人間形成とライフ・サイクル，中西信男編，人間形成の心理学，初版，ナカニシヤ出版，京都，13–15，1989.
9）佐方哲彦：青年期の同一性形成—EPSIによる発達課題の達成課題の解明，青少年問題研究，49–64，1985.
10）佐方哲彦，中西信男：成人期の同一性の発達に関する研究（一）　EPSIによる発達課題の達成意識の変化の検討，日本心理学会第51回大会発表論文集，549，1987.
11）中西信男，佐方哲彦：成人期の同一性の発達に関する研究（二）　EPSIとEFIとの関連から，日本心理学会第51回大会発表論文集，550，1987.
12）E．H．エリクソン，仁科弥生訳：幼児期と社会I，みすず書房，東京，317–322，1998.
13）無藤清子：「自我同一性地位面接」の検討と大学生の自我同一性，教育心理学研究，**27**(3)，28–36，1979.
14）安藤詳子，内海滉：看護学生の職業的同一性形成，名古屋大学医療技術短期大学部紀要，**5**，133–143，1993.
15）都津学：大学生における自我同一性と時間的展望，教育心理学研究，**41**(1)，40–48，1993.
16）松下由美子，荒木美千子：看護学生の職業的同一形成に関与する要因の検討　同一性拡散に焦点を当てて，日本看護研究学会雑誌，**17**(3)，75–76，1994.
17）小笠原昭彦，鈴村初子：看護短期大学学生の自我同一性地位と対人関係，時間的展望および職業選択の関連，名古屋市立大学看護短期大学部紀要，**9**，87–96，1997.

（平成17年5月10日受理）

Psychosocial Development of Nursing Students as Compared with Students not Majoring in Nursing Science

Mihoko NAKANII, Masae TANIHARA, Hiromi NAGAE, Hiromi OBA,
Niwa OHTA, Masako SUNADA, Mieko YAMAGUCHI, Michiko TOMEDA and Reiko FUKUYAMA

(Accepted May 10, 2005)

Key words : psychosocial development, nursing students, EPSI

Correspondence to : Mihoko NAKANII
Department of Nursing, Faculty of Health and Welfare
Kawasaki University of Medical Welfare
Kurashiki, 701-0193, Japan
(Kawasaki Medical Welfare Journal Vol.15, No.1, 2005 289–293)